

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	個人権課題をテーマとして取り扱った実践事例
-------	-----------------------

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

鹿児島県肝属郡肝付町

学校名

肝付町立国見小学校

学校のURL

<http://www3.synapse.ne.jp/kunimi-es/>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】 全学年1学級，全6学級

児童生徒数

【全児童数】 85人（平成23年11月30日現在）

（内訳：1年生7人，2年生10人，3年生15人，4年生16人，5年生19人，6年生18人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「明るく素直で心優しい思いやりのある子」「自ら考え自ら進んで学習する子」

「体を鍛え根気強くがんばるたくましい子」

【人権教育に関する目標】

（基本目標）「人権に関する知的理解の深化」「人権感覚の育成」

（重点目標）「自他の人権を尊重する態度の育成」「対話の力の育成」「一人一人を大切にしたい授業づくり」

人権教育にかかる取組の全体概要

自己存在感をもたせ、共感的人間関係を育成する支援の在り方

- ・ 自信や意欲を引き出す授業の工夫
- ・ 系統的な指導計画の工夫・改善
- ・ 学校・学級の環境づくりの充実

参加・体験的活動を通じた実践的な指導方法等の改善・充実

- ・ 教科や特別活動の中で仲間づくりを目指した学習活動の工夫
- ・ 地域や関係機関との交流活動

教職員の研修の充実

- ・ 人権尊重の理念についての理解と人権問題に対する正しい理解と認識

保護者や地域、関係機関及び校種間との連携

- ・ 人権に関するPTAの教育講演会や研修視察，家庭教育学級の充実
- ・ 各種便りや授業参観などによる啓発の充実
- ・ 保護者との定期的な教育相談や日常の連絡等による相互連携
- ・ 保育所や中学校との連携，校区青少年育成連絡協議会等との連携

3. 特色ある実践事例の内容

「個人人権課題をテーマとして取り扱った実践事例」
「出会い・ふれあい・認め合い・つながる仲間」
～自分やみんなを大切にすることの育成を目指して～

(取組のねらい, 目的)

人権の意義・内容や重要性について学習を深めるとともに, 地域団体や関係機関との交流及び共同学習等を通して, 人間関係を築く能力やコミュニケーションの技能, 他の人の立場に立って考えられる想像力, 実践・行動できる力等を育成する。

(取組を始めたきっかけ)

本校児童は, 明るく素直な反面, 人間関係が固定化しがちで, コミュニケーション能力が不足したり, 物事に対して受動的だったりする傾向が見られた。子どもたち一人一人が自分を好きになり, 自分やみんなを大切にすることの意識や意欲・態度をはぐくむためには, 子どもたち自らが主体的に, 学級の友達と協力しながら, 体験的に学習していくことが不可欠であると考えた。

そこで, 低学年は「生活科」, 中・高学年は「総合的な学習の時間」を中心に, 様々な人々との出会いや交流を通して, これまでの自分や身の回りの生活を振り返り, これからの自分の生き方や考え方を見つめることができるように, 人権学習として活動を進めることにした。

(取組の内容)

学習内容については, 子どもたちの発達段階に即して, 学年ごとの学習が, 継続的につながっていくように交流学習を計画した。

- | |
|------------------------|
| 1・2年生：保育所, 長寿大学との交流 |
| 3・4年生：特別支援学校との交流 |
| 5年生：ハンセン病問題についての学習 () |
| 6年生：部落問題学習 |

5年生 ハンセン病問題についての学習の実践事例

つなげよう・つながろう ～ハンセン病問題についての学習を通して～

1 学習を進めるに当たって

子どもたちは, 4年生の総合的な学習の時間に特別支援学校の児童との交流を通して人権学習を行い, 誰に対しても思いやりの気持ちを持ち, 助け合って生きていこうとする生き方について考えてきた。これらの学習を通して, 周りの人たちの考えや思いについて感じる大切さや, 友達に自分の気持ちを伝える大切さについて学び, 仲間とつながることへの意識も少しずつ高まってきている。しかし, 学校生活の中では, 先入観で物事を判断したり, 自分の思いだけを優先した言動をとったりする様子がまだ見られた。

そこで, 5年生の総合的な学習の時間では, ハンセン病問題についての学習を通して, 人権について考える計画を立てた。

学習に当たっては, ハンセン病の歴史や国立療養所星塚敬愛園について知らない

子どもたちが多く、間違った捉え方をしている子どもたちもいるため、ハンセン病問題の本質を伝えていくためにも、ハンセン病であった方々との交流を深めていくことで、正しく捉えることができるのではないかと考えた。そして、ハンセン病に係る様々な偏見や差別について学習し、子どもたちが、共生の社会づくりのために大切なことを考えるようにしていきたいと考えた。

2 目標

自分たちの普段の生活の振り返りや話し合い、ハンセン病問題についての情報から、偏見や差別について調べたいことを決めることができる。


資料を活用した調査や、インタビュー、取材などを通して情報を収集し、ハンセン病問題に関する正しい知識をもつことができる。











ハンセン病問題について調べる過程で、現在も療養所で生活している方々やその家族の方々などの思いや願いについて考え、自分の身の回りの生活における偏見や差別などの事実と照らし合わせて考えることができる。

自分が調べたことを、絵や図、写真などを使って、多くの人に分かりやすく伝えることができる。

お互いの思いや考えを深く知り、自分の生活を見つめることの重要性に気付く、自分にできることを考え、周囲の人たちに実践しようとする事ができる。

3 指導計画（全37時間）

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ	1 自分たちの普段の生活を振り返り、気付いたことを話し合う。 2 身の回りの偏見について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分やみんなを大切にするためには、どうしたらよいだろうか。</div> 3 ハンセン病問題について大まかに知る。 パンフレットを見て 紙芝居を見て <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ハンセン病問題について考えよう。</div>	4	社会にある差別だけでなく、学級のことや兄弟姉妹のことなど、自分と周りの人との関わりについて、見つめるようにする。 隣接する鹿屋市に星塚敬愛園があることに着目し、身近にある差別について気付かせる。 星塚敬愛園のパンフレットやハンセン病理解啓発資料（厚生労働省）、ハンセン病であった方の半生について描いた紙芝居を見ることで、イメージがもてるようにしていく。
見通す	4 星塚敬愛園を訪問する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【慰霊碑に刻まれた言葉を見つめて】</div>	6	星塚敬愛園を訪問し、関心をもったことや疑問に思ったことなどを書きとめさせて、これからの追究活動につなげさせる。 ハンセン病であった方に星塚敬愛園に来たときのことや身の回りで起きた出来事について伺い、その当時の気持ちを考えるようにする。

	<p>5 活動計画を立てる。</p> <p>敬愛園の歴史について知りたい。</p>  <p>調べたいことを絞ることができるように、実態に応じて支援していく。</p> <p>ハンセン病であった方々はどのような生活をされていたのだろう。</p>	
調べる	<p>6 追究活動を行う。</p> <p>調べ学習（方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット ・ビデオ ・インターネット ・インタビュー・敬愛園訪問 <ul style="list-style-type: none"> ・一人調べ ・中間発表 ・テーマごとにグループ調べ   <p>【実際に手に取って】 【直接話を伺って】</p> <p>なぜ、いまだに差別が続いているのだろう。</p>  <p>自分たちで確かめることが大切だ。</p>	<p>子どもたちが主体的に活動できるようにするために、情報を得ることができる資料について知らせたり、インターネットの検索方法を指導したりする。</p> <p>グループの中で互いに意見を出し合わせることで、ハンセン病であった方々の気持ちや自分の思いを深めていくことができるようにする。</p> <p>ハンセン病問題を通して、正しい知識を得ることの大切さや無関心であることの問題について感じることができるようになる。</p>   <p>【意見を出し合い、協力して整理する】</p>
まとめる	<p>7 グループごとにこれまでの学習についてまとめる。まとめの発表をし、意見交換を行う。</p>  <p>【発表の様子】</p>	<p>10</p> <p>相手により分かりやすく伝えるには、どのような工夫が必要かという観点をもたせながらまとめさせる。</p> <p>調べる過程で、自分が気付いたことや感じたことも併せて発表させる。</p> <p>思いやりのある見方や考え方を称賛していくようにする。</p>
いかす	<p>8 これまでの活動を振り返り、自分にできる活動を行う。</p> <p>療養所で生活している方々に今の思いを伝えたい。</p>   <p>ハンセン病のことについて家族にも知って欲しい。</p>	<p>4</p> <p>これまでの学習を通して、自分たちが学んだことを振り返らせ、これから先の自分の行動について考えさせる。</p> <p>学級活動や行事等との連携を図り、学んだことを実践に結び付ける意欲を高めさせる。</p>  <p>相手の気持ちを考えて接するようになっていきたい。</p>

(取組を実現するに当たって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫)

1 国立療養所星塚敬愛園との連携

本学習を進めるに当たっては、星塚敬愛園やそこで生活している方々の理解と協力が欠かせないため、窓口となる星塚敬愛園福祉課と連絡を取りながら準備を進めた。

学習を始める数か月前に担任と人権同和教育係で福祉課の担当者を訪ね、学習の概要について説明し、協力を依頼した。また、学習や子どもたちとの交流に協力していただける方も紹介してもらった。

事前学習をしてから、再度、園内の施設見学に出向いた。実際に施設や資料館の展示品を見たり、福祉課の方の説明を聞いたりすることで、大変有意義な機会となった。

その日、子どもたちと交流をしていただける方にもあいさつに行き、お話を伺うことができた。

その後、子どもたちは、2度の訪問を行い、実際に施設や資料館の展示品を見学したり、ハンセン病であった方々との交流活動を行ったりした。

調べたことを発表する時には、交流活動をしていただいた方を学校に招待して、一緒に聞いてもらうようにした。

2 家庭・地域との連携

子どもたちの学習が、効果を上げるためには、私たち教職員や家庭・地域も共に人権について考え、知的理解の深化や人権感覚の育成を図ることが必要であると考えた。

そこで、職員研修やPTA研修視察等で星塚敬愛園を訪問したり、家庭教育学級、校区青少年育成会の研修会等で人権学習を取り入れたりしながら、学校の取組について理解・協力が得られるようにした。

～ P T A研修視察の感想から ～

近くにありながら縁遠い施設でしたが、今回訪問し、入園者の方から若い時の差別等貴重な話を聞くことができました。みなさんが前向きに生きていらっしゃるのを感じ、私自身少しずつでも今後の生き方に生かしていかなければと思いました。

子どもの頃、周囲からうつる病気と聞き、近寄ることもなく正直言って変な目で見ていました。今回お話を聞き、大変な間違いをして申し訳ないことをしたなと思いました。

4 . 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

ハンセン病問題についてほとんど知らないところから学習が始まった子どもたちだったが、実際に星塚敬愛園に出向き、旧火葬場や納骨堂、慰霊碑などの施設を見学することやハンセン病であった方々から実際の話をお聴くことにより、自分やみんなを大切にするためにどうすればよいか真剣に考えようとする意識や意欲が高まった。

星塚敬愛園訪問の際、園に関する説明や資料の提供、調べ学習における子どもの質問への対応など、交流学习をしていただいた方々や園の担当者が親身になって協

力していただいたお陰で、感謝する気持ちが、態度や行動にも見られるようになった。

年間を通じた学習に取り組むことにより、子どもたち同士の協力や自主的な意欲などがはぐくまれ、学習のまとめと発表会では、子どもたちのそのような姿を見ることができた。

～ グループごとの学習のまとめと発表会 ～



(子どもたちの感想から)

さんにお会いしてたくさんのことを学びました。一番は「あきらめない心」です。何事にも負けずにがんばっていたのがすごいと思いました。そして、自分から立ち向かっていったことがすごいです。このことを忘れないようにしていきたいと思います。

ぼくは、前に差別をしたことがありました。それを今思い出すと、どうして差別をしたんだろうと思います。差別を勉強していくなかで、差別はあってはならないということが分かりました。人権は、みんなにあるということが分かりました。

5. 実践事例についての評価

(取組の成果と課題)

ハンセン病であった方々との交流を大事にしながら学習を深めていくことで、自分が無意識にしていた差別についても考え、反省し、学習したことを実践していこうとする意識を子どもたちにもたせることができた。

学習の中で、友達の意見を聞いて感想をもったり、自分の考えと照らし合わせて考えたりすることを、まだ苦手としているため、多くの場を設定し経験を重ねさせるようにする。

教職員の人権についての知的理解の深化と人権感覚の高揚が求められるため、常に研修を重ね、今後も人権尊重の視点を大切にした活動を意識して指導をしていく。

今後もPTA研修視察や家庭教育学級などの機会に、人権学習を進め、学校での学習を家庭や地域でも肯定的に受け止める環境ができるように、積極的に公表・発信していく。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

肝付町立国見小学校

個別の人権課題を学ぶことにより、社会にある差別や偏見をなくする意志や行動力を身に付けることと、児童が自らの生き方を振り返り、生きる力を身に付けることの両面を大切にしなければならない。

当校では、目標を明確に設定し、達成に向けての6年間の継続的な学びを保障した取組を進めている。また、「対話」を手法としたグループ学習や調べ学習、人々の思いや願いに触れて、共感することを大切にした交流学习等を繰り返して行うことにより、「正しい知識」を身に付けさせている。そして、児童が人権課題を自分の問題として内面化し、思いを深め、社会や個人の変容に資する生きた学びとしていることにも注目したい。

教職員一人一人が研修を積み上げて、児童を大切にしながら日々の取組を進めていることが成果につながっており、教師の熱い思いを感じさせる取組である。